

第8回遠野市進化まちづくり検証委員会

— 議事概要 —

(開催要領)

- 1 日時 平成22年10月5日(火) 午後1時30分～午後4時30分
- 2 場所 遠野市役所3階大会議室
- 3 出席者

(1) 委員

委員長	山田晴義	岩手県立大学名誉教授、宮城大学名誉教授
委員	青木稔	武蔵野市子ども家庭部長
委員	小野寺純治	岩手大学地域連携推進センター教授
委員	倉原宗孝	岩手県立大学総合政策学部教授
委員	工藤洋子	株式会社ジョイス監査役会事務局
委員	鈴木高繁	有限会社K・C・S代表取締役

(2) その他

① 第三セクター等

社団法人遠野ふるさと公社

菊池美之 事務局長

社団法人遠野市畜産振興公社

菊池孝二 専務理事

菊池武夫 理事

櫻井収 理事

社団法人宮守わさびバイオテクノロジー公社

菊池孝二 常務理事

② 遠野市

本田敏秋 市長

及川増徳 副市長

平野智彦 経営企画室長・総務部長

菊池武夫 農業活性化本部長

櫻井収 農業活性化本部畜産担当部長

菊池文正 経営企画室経営改革担当課長

菊池孝二 参与

③ その他

財団法人地方自治体公民連携研究財団

佐藤茂夫 上席執行役

船渡川純 上席執行役

(議事次第)

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ

- 3 出席者報告及び日程説明
- 4 協議
 - (1) 遠野市進化まちづくり検証委員会提言のまとめについて
 - (2) その他
- 5 閉会

(議事概要)

1 開会

○平野智彦 経営企画室長

只今から、第8回遠野市進化まちづくり検証委員会を開会させていただきます。
最初に、山田委員長からご挨拶を頂戴します。

2 委員長あいさつ

○山田晴義 委員長

第8回遠野市進化まちづくり検証委員会にお集まりいただき、ありがとうございます。
今日は、検証委員会提言まとめの原案をご準備いただきました。まとめに当たりましては、たくさんご意見・ご発言いただきましたので、その整理など事務局にご苦勞をおかけしました。

また、検証におきましては、各団体にお世話になりました。ありがとうございました。

更に、遠野スタイル青年会議で、市民のみなさんにご議論いただいておりますが、議事録等資料を拝見いたしますと、検証委員会の議論を後押しいただいているお話がたくさん出ておりました。そういった意味では、市民感覚に近い議論ができたと思っております。

今日は、仕上げに向けまして忌憚のないご意見を頂ければと思っております。

よろしく申し上げます。

3 出席者報告及び日程説明

○平野経営企画室長

(委員等の出席状況について報告)

本日の出席委員の紹介でございます。

山田委員長、青木委員、小野寺委員、倉原委員、工藤委員、鈴木委員の6名の出席でございます。なお、秋山委員、高力委員につきましては所要のため欠席でございます。

なお、本日は財団法人地方自治体公民連携研究財団の上席執行役の佐藤氏及び船渡川氏の2名が、この会議の様子を視察のため出席してございます。

(委員の日程について報告)

続いて、本日の日程でございます。

これまで第三セクター7法人、関係団体3団体の検証を行っていただきました。本日は、本委員会としての提言のまとめの作業をしていただきます。

進行は、山田委員長に申し上げます。

4 協議

○平野経営企画室長

協議の進行は、山田委員長に申し上げます。

(1) 法人等の見直しについて

○山田委員長

それでは早速、協議に入ります。

第三セクター等の検証結果(原案)をもとに、これまで検証してきた団体一つひとつについて、これからご議論いただきます。

始めに、第三セクター等の検証結果(原案)をどのような手順で取りまとめたのかを説明さ

せていただきます。

これまで7回に渡る検証委員会で、各団体について議論をして参りました。それぞれの団体の最後に、私が委員の皆さんの意見を整理してまとめさせていただいたものが記録されております。それをもう一度、漏れがないか事務局に点検していただきました。

また、遠野スタイル青年会議でのご発言も点検していただきました。

それらを整理したものが、本日配布しております第三セクター等の検証結果(原案)です。

まだ、まとめ過ぎて中身が見えにくいものや文言の整理がうまくいっていないものもありますが、この資料を基にご議論いただきたいと思います。

一つずつ議論を進め、各団体の記述内容のご検討をいただきます。それが一通り終わりましたら、次にそれぞれの団体につきまして、①現状維持、②一部見直し、③抜本の見直し、④出資の引上げ、⑤廃止の5つの区分に整理していきたいと思います。

(総論)

○山田委員長

それでは、まずは総論から見ていただきたいと思います。

なお、総論は全部の団体が終わってから再度ご議論をいただくこともあろうかと思いますが、まずはここから始めたいと思います。

前文では、各団体が努力されて事業に取り組んでおられることに対する敬意を表する旨を取り上げております。

1点目ですが、各団体の設立目的と実際の事業の齟齬が見受けられることから、団体の目標と現状を踏まえた課題の設定も不十分であり、結果的に課題を解決するための計画もうまく作られていないものも多いのではないかとこのことを挙げております。

2点目ですが、各法人の活動ですが、それぞれの役割を踏まえて見直しをしながら事業の選択と集中を進めるべきではないかということ。場合によっては、法人の統合・連携も考えていく必要があるのではないかとこのことを挙げております。

3点目は、多くの法人が自立した経営組織体として成立していないのではないかと。特に企業的な戦略、総合的な取り組みができる組織体制になっておらず、法人が持続的なものになっていないのではないかとこのことを指摘させていただきます。それは、経営組織だけではなく、現場の責任者にも基本的な技術や営業的なノウハウも含めて、そういったことが欠けているのではないかとこのことを挙げております。

4点目は、市の方針が必ずしも明確ではないということ。行政の下請け的な組織となっており、法人の自立的・自主的な活動が阻害されているのではないかと。そういったことを考えて、市と法人との役割を分担しながら、適切な協働を図っていく組織体にすべきではないかとこのことを挙げております。

まずは、この総論につきまして、現段階でお気づきの点などありましたらご発言いただきたいと思います。

○委員一同

一特になし

○山田委員長

それでは総論は、最後にもう一度見直すことにいたしまして、個別の法人のまとめに移りたいと思います。

(株式会社遠野)

○山田委員長

それでは、株式会社遠野です。

1点目は、観光振興の受け皿として重要な役割を果たしているということ。ただし、設立目的をもう一度検討する必要があること。その他の観光施設・機関との連携など、具体的な役割を明確にすることです。

2点目は、営利活動を行う株式会社の性格を活かしつつ、市の第三セクターとして公益性・公共性を担う役割を実現していかなければならないこと。

3点目は、市においても、会社に求める役割を明確にして、将来ビジョンを会社側と共有することが必要であること。

4点目は、先程の将来ビジョンを踏まえて経営計画を策定し、株式会社としての収益性、公共性・公益性の役割を明確にしていく必要があること。

5点目は、経営面・技術面を含めて、戦略的なノウハウと企画開発を行うことができるリーダーシップのとれる人材を確保するなど、代表者と責任者が、そういった役割を果たす取締役会になって欲しいということ。また、現場責任者である支配人も、取締役会の提案等を実行していく能力を持った人材を確保していくということ。

6点目は、市民や外来者のニーズの把握に努め、一層のサービスの充実。

7点目は、市民から親しまれ、市民の理解や共感が得られる施設経営に努めること。それが結果的に成果につながるのではないかとということ。

それでは、株式会社遠野につきまして、ご意見をいただきたいと思います。

○工藤洋子委員

字句の修正です。提言案の文中「観光振興等の受け皿として重要な役割及び波及効果も大きいことは認められるものの、」の箇所を「観光振興等の受け皿として重要な役割を果たし、波及効果も大きいことは認められるものの、」の方がよろしいのではないのでしょうか。

○山田委員長

そうですね。

○工藤委員

提言案は、広く捉えられており、すべて入っている印象を受けますが、気になる点が1つあります。株式会社遠野は、給食センターの調理業務、お弁当・惣菜等の調理の受託、宅配サービス業務を行っておりますが、過去に食中毒やその疑念を抱かせる事件が起きていることから、設備の改善や衛生管理、衛生教育の徹底、従業員の健康管理等、安全な設備の整備と教育を盛り込んで欲しいと思います。

ただし、今後の設備改善・修繕の概算費用をお聴きしましたところ、概算で9億2,000万円要するとの答えをいただきましたが、その資金の捻出も大変だろうと思います。その点を合わせて、一つの問題として取り上げて欲しいと思いました。

○山田委員長

これまでの衛生面における問題に対する設備面、管理・教育、体制を含めた改善をしていく必要があるだろうということ。当然、資金面の関係もありますので、それを踏まえてどういう方向にすべきか。それは是非入れていただくことでよろしいですね。

○小野寺純治委員

他の事業主体との連携があまり議論されませんでした。が、(株)遠野は、ある面においては遠野の観光の中核です。自らの会社を経営すればいいと言いますか、株式会社の団体として、遠野市から言われたことをやっているようですが、企業としての戦略性に乏しいようで

す。公共性・公益性を持った第三セクターではありますが、もう少し戦略性を持って他の観光機関との連携による指導的役割を果たしていくことが必要ではないかと感じています。

ある意味、(株)遠野と(社)遠野ふるさと公社が遠野の観光の両輪として回っていく。

そうしますと、あえりあ遠野の営業と給食センターの運営ばかりではなく、あえりあ遠野を観光の核として、他のホテル、旅館のサービスを合わせて、(株)遠野が戦略的な機関として、他の観光施設や第三セクターとの連携を中核的に果たしていく役割を果たしていただきたいと感じました。後で考えて、それは重要だなと思いました。

○山田委員長

市の観光産業の担い手として、他の観光施設、或いは組織のリーダーシップが取れる戦略的な役割を果たしてくという内容を含めていただくこと。

○青木稔委員

観光の核だけでなく、総売上額も5億円近い。経済波及効果。食材なども地元産品をたくさんつかって他の第三セクターや公社との連携のもと、経済面での波及効果の核の役割が求められていると思いますので、それが盛り込められればいいと思います。

○山田委員長

小野寺委員の発言とまとめて表現するかどうかは議論が必要だが、食材等を含めた遠野市の産業振興での役割を果たしていくことが大事という意見でした。

○小野寺委員

2030会議で、市内旅館との棲み分けや地元食材の活用が提言されている。そういう一言も入れればいいと思います。

○鈴木高繁委員

全体をいろいろ組み合わせてみれば、言いたいことは出ていますが、そのまとめ方として、読んだ人がわかりやすいようにしなければいけない。会社全体が何をしなければいけないか、社長、役員層がやるべきこと、実行部隊が何をしなければいけないのか、それが順番に整理されているとわかりやすくなると思います。

また、2030会議のまとめを読んでも誰も「無くしていい。」とは言っていない。むしろ「自分達も使いたい。」し、「使いやすくして欲しい。」などがある。市民ニーズを掴まえることを明確に経営計画に盛り込めという主張でいいと思う。

それらが整理できれば、携わる人たちや利用する人たちが、何をどうすればいいのかわかりやすくなると思いました。

○山田委員長

最初の発言は、全組織に通じることと言えます。記述の展開、構成・展開の順序を工夫して読みやすいようにということ。

市民ニーズの把握に努めるだけでなく、積極的に把握して、これをシステムに盛り込んで反映させるという発言でした。

○工藤委員

個別の具体的な問題が内在していますが、そこまで提言するかどうか別にして、気になることとしてお話しをします。

市でまとめていただいた基本情報シートの評価調査結果シートの最後のコメントの部分に記載されていますが、1点目として「宿泊、宴会等の部門別収支状況が把握されていない。」という問題があり、それに対する提案としまして「会計処理による部門別収支の管理、部門別経営目標の作成」とあります。

もう1点ですが、「業務量の増加に乗じて時間外手当が増額し、この管理の甘さが赤字決算の元になっている。」とあり、この提案として、「従業員数と組織体制の見直し」があります。

両方共に問題を的確に捉え、提言しておりますが、このような個別具体的な提案まで盛り込むかどうか、皆さんにお図りしたいと思います。

○山田委員長

今は、部門毎の経理とその対応、従業員の定数管理体制の問題が挙がっておりました。この取りまとめについて、全体なトーンとして、いかがいたしますか。

具体的な方が、後で使いやすいと思います。

○鈴木委員

そういうことが本当に包含されてやられるのであれば、それでいいと思います。

ある程度は具体的に加えられるべきと思います。

○山田委員長

必要な事項は、書き込んでいくべき。

必ずしも1ページにまとめる必要はなく、必要なことはきちんと書き込む。今のような具体的な文言もきちんと提言に入れることとして、それを別途記述すべきかどうかは、検討することとしてよろしいですか。

○青木委員

市民の皆さんが読んでわかりやすいようにするためには、具体的に例示として表現されていいと思います。

○小野寺委員

大きい部分を進化まちづくり検証委員会で提言しながら、私たち委員が直接関与していないサービスなど具体的な部分は、それを実際見ている2030会議の意見や、市の内部での検証作業などで指摘されている具体的な事例は、提言者をきちんと分けて提言した方がいいのではないかと思います。

○山田委員長

構成としては、ストーリーの展開がわかりやすいように。それぞれの項目の趣旨を示しながら、具体的な発言を踏まえ、こうあるべきだと市民にわかりやすい記述にしたいと思います。

○倉原宗孝委員

2030会議のご意見を参考にさせていただいた。その意見の多くが、敷居が高いなどの市民意識、理解の乖離が伺えます。おそらく、その反映が「市民に親しまれ、理解や共感が得られる施設経営」に表れていると思います。親しまれ程度よりも、もう少し強く望んでいるのではないかと感じた。

施設経営だけの問題なのか、市民から見たとき、親しみやすい空間的な間取りまで含めるかどうか。

○山田委員長

2030会議のみなさんの気持ちが反映できるよう表現する。サービス、経営だけでなく、空間的にも配慮が必要ということですね。

我々だけとか、事務局だけがわかるだけでなく、市民の皆さんにも伝わるように書き込んでいくことが必要と思います。

○小野寺委員

一方でやはり、将棋の対局があるような市のシンボル施設でもある訳です。それをどのように戦略的に考えていくのかも非常に大事です。他の施設と同じレベルまで落としこんでしまってもいいのかは、きちんと議論すべきと思います。

市民に開放する部分と、いいものを残していく部分とをきちんと分けて、戦略的な施設としてどういう位置付けをしていくのか。他の施設とのバランスを考えると、同じレベルの同じ旅館という考え方にならないのではないかと思います。

○倉原委員

その意味で、むしろ7（勤められたい）を受けて6（市民のニーズを掴んで）の順番ではないかと思っています。ニーズ把握だけでなく、こちらの趣旨、理解を求める情報発信・伝達をするべきなのかなと思いました。

○山田委員長

6と7を整理して、7の延長上に6を表現すべきということ。また、施設の役割をきちんとメッセージしなければいけないということでした。

これは、また、整理された段階でお目通しいただくという段取りで進めたいと思います。今の発言を盛り込んで、もう一度書き直していただくことでよろしいですか。

最終的にご判断をいただきますが、(株)遠野の検証結果として、下の1から5のどこに位置すると考えたらよろしいでしょうか。

○小野寺委員

戦略性を考えていただくことになると、意味づけとしては3。形跡的には2。内実的には、しっかりした考えを持っていただく必要があると思います。

○鈴木委員

経営計画をしっかりしなさいということなので、3が適当と思います。

○山田委員長

形はそれなりに運営されている訳ですが、かなり本質的に問題があるので、3ということにいたします。

それでは(株)遠野は以上といたします。

(株式会社遠野テレビ)

○山田委員長

株式会社遠野テレビです。

1点目は、良好な経営状態にあるということ。現時点では自立可能な第三セクターではないかということ。

2点目は、しかしながら、こういう有利な状況にありながら自律的な経営ビジョン、戦略的な取組みが見受けられないために、その点を整理すべきではないかということ。

3点目は、営利活動を行う株式会社としての特性を活かしながらも、第三セクターとしての公共性・公益性を担う機能を活かすべきではないかということ。

4点目は、市民の参画が得られるような取組みを進めていただきたいということ。そして市民に対するサービスの充実や還元を考慮いただきたいということ。

5点目は、市の情報発信機能として重要な役割を果たしている訳ですが、その強みを活かした公共サービスの在り方を検討する必要があるということ。

6点目は、こうした見直し等に対応できるスタッフ体制が必要と言うこと。

それでは、株式会社遠野テレビにつきまして、ご意見をいただきたいと思います。

○小野寺委員

私が2030会議での意見を見て、我々委員が遠野テレビの番組、コンテンツを見ていないということがわかりました。「魅力的な番組がない。」「料金が高い。」とあります。経営内容から見れば、よく頑張っているように見えたが、その視点が抜け落ちていたと反省点があります。

「自主事業の拡大を考えたらどうか。」と話しましたが、それが本当に客観的にいけるのか、個人的に委員としてもよくわからなくなってきたのが実情です。

○青木委員

基本的には提言案のとおりでよろしいです。一番強調したいのは、2030会議の意見にもありますが、スポーツ少年団の大会など、マスメディアでない、地元密着の会社ならではの地域情報の発信の差別化が、公共関与の良さと思う。

難視解消、地デジが全国的な課題となっています。災害時など、テレビの情報は命綱ですから、そういった公共性を帯びていることを踏まえて、一部利用料が高いと感じる方もおられますが、経営で生み出した利益の中から、難視対策には、公共ですべきと思いました。

○山田委員長

今でも、地元のみなさんが魅力とを感じるものが何かを把握しつつ、地元密着の情報発信をしていくべきというお話でした。あとは、難視聴地域の解消の活動をすべきとのご発言でした。

○鈴木委員

成績優秀なので褒めたのですが、なぜ、若者がこういう思いを抱きながら、なぜ経営がうまくっているか。それは、今テレビを見ておられる方は年配の方が多いのでしょうか。もしも、次の世代の方の多くの意見がこうであれば、悲しい状況に変化していきます。

(株)遠野テレビとしては、この結果と現状と将来、今後の方針をどうするかについて、それを一言添えていただきたいと思います。

もっと評価されていると思っていましたが、評価されていません。これは将来に対して問題を残しているテレビ事業だと言えます。その意味では、経営計画をしっかりと欲しいことを加えていただきたいと思います。

○山田委員長

青年会議の結果。若者、次世代のニーズを捉えて切れていない。そのことを経営計画に反映させて欲しいということを盛り込むべきということでした。

○工藤委員

テレビには、非常に期待が膨らむものです。遠野の情報を世界に発信して欲しいと申し上げましたが、現状の組織や資金力で、どの程度まで実行できるのかをこの際整理しておくべきだと思います。住民の要望、市からの要望に対して、どう対応するのか、或いはできるのかということも遠野テレビとしても考えて整理しておく必要があります。

基本シートにもありますが、「市の会計のルールが不明確」という点も併せて見直した方がいいと思います。

現在、「遠野物語発刊100周年」記念事業で多くの情報が発信されていますので、後世に残したい貴重な映像をアーカイブ事業として保存し、継承していけば、将来多くの人たちに遠野を大事にしたいと思ってもらえるのではないかと期待しています。

○山田委員長

会社としても選択と集中の考え方をしっかりと、遠野テレビが目指すべきものを組み立てていただきたいということ。それは、市の要望とも調整しながら、その点を明確に経営計画に反映させていくべきということが1点目でした。

2点目は、アーカイブ事業が必要ではないかというご意見でした。

○倉原委員

“次世代”を意識した言葉を入れたい。有利な経営状況があるが故に、“次”が意識された表現を入れたいと思いました。

また、市民参画の市民を一括りにしてしまうとぼやけてしまう。ある部分の層の評価が高いから、それでいいということではなく、せつかくのいい状況が、次世代に代わるとマイナスになるようではいけない。市民の各層の特徴、各世代の要望を細かく書くことが、より現実的ではないかと思いました。

○山田委員長

市民の各層のニーズを捉えることと、次世代のニーズを受け止められるようにという両面が反映されるべきだとのことでした。

○小野寺委員

基本情報シートの法人の評価に「市民ニーズをとっている」とあり、やっていることを前提に議論してきたが、2030会議からの意見は逆になっています。ニーズ把握の捉え方が、一番ずれているところ。

提言をまとめる際には、補足として「市民ニーズをもっと的確に把握に努めていただきたい。」ということをつけ加えていただきたい。

○山田委員長

文言ではフォローされているが、本質的理解が違う点があり、今のご発言は提言に是非入れているとは思いました。

遠野テレビの検証結果は、一部見直しでよろしいですか。

特に、次世代層の適切なニーズの把握とそれに基づく経営計画、質的に魅力的な番組づくり、公共目的としてアーカイブ事業などを盛り込むことにいたします。

それでは(株)遠野テレビは以上といたします。

(株式会社リンデンバウム遠野)

○山田委員長

株式会社リンデンバウム遠野です。

1点目は、住宅建築、或いは外構部材には、非常に意欲的に取り組んでおり、経営は良好であること。

2点目は、市の林業、木材産業底上げのために、森林価値を高めることになるので、そういった視点から法人の役割を明確にする必要があること。

3点目は、森のくに遠野協同機構の事業の全体を見直していく必要があるのではないかと。その中で市や関係機関との役割を明確にするとともに、協働体制を見直す必要があるということ

4点目は、森林の価値を活かした商品開発、商品化を整理して、山と消費地を結ぶ体制の整備を進めること。更に、消費地との連携策を見出していく必要があること。

5点目は、将来に向かって持続可能な組織体制の確立。

6点目は、中長期の経営戦略の明確化です。

それでは、(株)リンデンバウム遠野について、ご意見をいただきたいと思えます。

○工藤委員

提言案の3点目ですが、(株)リンデンバウム遠野自身の問題とは別になるかとは思いますが、他の協同組合への貸付や出資している額が合計で6,000万円近くあります。果たして、この資金をリンデンバウム遠野が出さなければならないものなのか。これを先に解決しなければ経営が厳しいと思えます。

もう1つは、人の問題でありまして、社長自らが営業に歩き、人件費を削るなどの現状から、人や経営に関わるマンパワーがもっと必要ではないかと思えました。お金と人の支援をしないと、存続自体が難しいのではないかという気がします。

○山田委員長

(株)リンデンバウム遠野は、産業を開発する公益性高い事業を担っているにもかかわらず、他の団体への出資等の負担が相当あり、非常に厳しい状況にあるという問題。その中で、マンパワーも不足し、支援体制を考えるべきとのことでした。

非常に大きな課題に対して、小さな組織で全部実現していくのは大変厳しいということはいくつもよくわかります。

○小野寺委員

役割の検証ですね。木材を売っていく一民間会社でいいのかもしれませんが、全体に遠野の森林資源をうまく活用していくための中核的役割を担い、それが関係団体への出資までしなければうまくいかないところまで追い込まれている。その点を抜本的に考えないと、万が一この会社が倒れると、遠野の木材活用策全てが倒れてしまう可能性すら感じる状況でした。

この役割を抜本的に見直すべきという言葉が入っていますが、やはり大きな考え方として最初にそういった概念をきちんと出した方がいいのではないかと感じています。

○青木委員

経営評価シートに記載されているとおり、関係団体へ資金提供をしています。それが1社の役割を超えて、自らの足元も弱くなってきているという経営上の問題をクリアしないといけない。

提言の3点目を、具体的にきちんと書き込む必要があると思います。

また、2030会議の意見にもありますが、木工団地と(株)リンデンバウム遠野との関係に関して、どうして(株)リンデンバウム遠野だけが市の出資なのか、その点がわかりにくいことなど、このことも一段上の段階で整理する必要があると思います。

○山田委員長

森のくに遠野協働機構の役割、それから市の役割を含め(株)リンデンバウム遠野がどういう役割を果たしていくべきかを、きちんと提言に書き込んで、広域性や中核的な役割を果たしているが故に必要な支援が必要であることも盛り込んでおく必要があるということだと思います。

これには、短期的な対応と中長期的な対応があると思います。その点も踏まえた支援として書き込んでみてはどうでしょうか。

○鈴木委員

これまでの委員会で、「平成21年から26年までの経営計画で、順次利益を出し1億円めざす。」と伺いました。考え方は立派ですが、でも背景がない。(株)リンデンバウム遠野に対しては、先ず始めに「中期計画を達成しろ。」と言いたい。

そのために何をどうしなければいけないのか、経営会議でよく話し合っ、経営計画や出資の問題など整理していかないと、今の国内の建設業界は、益々悪くなっていると報道されています。そういうことに対して、どういう手を打って計画を達成するのか。

提言としては、「最初に中期計画大丈夫ですね。」ということを確認しながら、経営計画が先ず先に来て、個々のことはその下に来るべき。この会社の場合は、単年度に目を向ける前に、中期があつて、その次の長期、もちろん単年度も大事だが、中期をどうするかを先に考えていくべきです。

中期があつて、個々の提言をしていくという綴り方がいいと思います。

○山田委員長

冒頭に「中期計画の実現に取り組む」ということがあつて、それから、課題の整理という書き方でよろしいですか。

○鈴木委員

それができなければ、出資引上げに向かわざるを得ないと思います。

○山田委員長

(株)リンデンバウム遠野につきましては、これも3の抜本的な役割見直しということになります。中期計画の達成など大きな課題もあります。もう1つは、木工団地全体の役割の整

理もあります。かなり大きな見直しとすることになります。

それでは(株)リンデンバウム遠野は以上といたします。

(社団法人遠野ふるさと公社)

○山田委員長

社団法人遠野ふるさと公社です。

1点目は、定款に定められた地場産品の研究開発が不十分である。遠野の資源を活かした商品開発に努めて、遠野ブランド形成のリーダーとしての役割を果たすべきであること。

2点目は、遠野ブランド形成に関しては、市や関係機関・団体との連携体制を構築する必要があること。

3点目は、市民の参画形態についても留意する。市民団体等の提言を受け入れて、市民の協力が得られるしくみをつくり、商品開発、販売促進につなげていくということ。

4点目は、各部門の収益構造の見直しを進めて、詳細な収支計画を策定し、株式会社への移行を検討すること。

5点目は、各部門の機能分担の連携を見直し、効率的な組織体制とすること。また、将来的な人材とそれに対応できる組織体制の見直し。

6点目は、観光客や市民のニーズに照らし、施設のユニバーサルデザインやバリアフリー化に留意すること。

7点目は、以上を踏まえた中期計画を策定し、それに基づくビジョンを踏まえた堅実な経営を行うこと。

8点目は、以上を踏まえ、戦略的な取組みを実行できる理事会構成に見直すこと。

それでは、(社)遠野ふるさと公社について、ご意見をいただきたいと思えます。

なお、先程の(株)遠野も含めて、遠野市の観光産業発展のためのリーダーシップも検討されるべきだと思います。

○小野寺委員

(社)遠野ふるさと公社の検証作業で感じたのが、売上と経費が波打つ形で、株式会社のような経営になっていないことが気になりました。売上が上がると経費も上がる。売上が下がると何とか経費を落とそうとし、何とか赤字を回避しようという動きが見えてきます。臨時職員の給与水準を見ても、正職員とほとんど変わらない水準になっていたりするなど、経営のメリハリが見えない。儲かる時に利益を積めるような体制にしながら、一番大きな道の駅遠野風の丘の売り上げが今後も続くのかということもありますので、公社としてこのままでいいのか抜本的に見直すべき時期にきているのではないかと感じています。

○山田委員長

経営戦略が、基本的なところが押さえられていないということ。組織としても、株式会社化を明確にしていきたいというご意見でした。

○小野寺委員

例えば、たかむろ水光園も管理についても「管理すればいい。」という考え方しかなく、ユニバーサルデザインのような顧客管理の発想が出てこないというところにつながっている。そういうことを抜本的に考える時期に来ているのではないかと感じるようです。

○山田委員長

利用者側の視点に立った見方ができていない。そのために、経営組織、人的なことも含めて見直していくべきではないかということです。

○青木委員

(社)ふるさと公社の広範囲な事業展開と経営規模から考えて、遠野市の観光や産業振興の

連携の核となる事業体だと思えます。事業収益構造から今後の展開としては、株式会社が選択されて然るべき方向になると思えます。

ただし、2030会議の意見からは、特産品開発への補助を求める意見がありました。その部分が公共関与の必然性の理由になっていると思えます。株式会社にも自己の研究開発部門がありますが、広範囲に遠野市全体の公益の観点から、開発というのが公益補助のキーになると思えます。それが株式会社では、公益性と両立するのかがわからない。(社)ふるさと公社単体では株式会社もあると思うが、他の部門との連携を考えた組織体ということであれば、事業部門毎に違う道も模索できると思えます。

○山田委員長

連携の核としての役割を果たしていくことであれば、株式会社化でいい訳です。一方、特産品開発の取組みでは、公的支援を含めて考えますと、株式会社化された会社で考えるのか、他の組織体も含めて再編された中で考えるのか、その記述も含めるべきというご意見でした。

○工藤委員

各部門は頑張っていると思いますが、組織としての連携や業績の向上など課題は多く、8部門の事業活動が円滑・効率的に行われるような管理体制になっているのかということが気になります。基本情報シートの法人記載欄でも同じような問題が指摘されています。「営業形態が一様でない中で、組織が一つであるため柔軟性に乏しく、新たな取組が進まない。」「公社単独の検討では、資金規模、要員確保の面で限界がある。」これは大きな課題で、抜本的な見直しが必要だと思えます。

収益構造見直しについては、たかむろ水光園と結の市のテコ入れが必要だと考えます。たかむろ水光園については、本館のリニューアルの結果どうだったのかを聞きたいですね。

○山田委員長

市側の発言も聞きたいと思えます。

○鈴木委員

その時に、損益の部分について、平成21年度の結果が出ていると思えます。それも併せて伺いたいです。

○山田委員長

各部門がバラバラに展開されているようですので、全体的な運営形態としてのシステムの再構築が必要ではないかということ。

また、収益構造に関連して、赤字部門のテコ入れが必要ではないかのご意見でした。

○鈴木委員

少し甘いかもしれませんが、(社)ふるさと公社は可能性をたくさん持っていると思えます。経営陣で先頭切っている方に財務の詳しい人を当てて、縦横を見ながら、この組織にスクラップ・アンド・ビルドの取捨選択の権限を与え、人とモノに対して自由にやらせる権限を与えると、経営の先行きが見えてくるのではないかと。先行きが見えてくると、出資している市も安心して任せられる。権限と人を与える見直しをすると非常によくはないかと思えます。平成20年度は資料のとおり、来訪者も売上も減っているのかもしれませんが、全体を見ると(社)ふるさと公社の体質は、ある比率で捉えた時に良くなる力を持っている団体に見えました。その感が当たっていれば、この提言でよろしいと思えます。

○山田委員長

平成21年度の数字がわかりますか。

○(社)遠野ふるさと公社 菊池美之事務局長

たかむろ水光園の本館リニューアルに関しましては、4月に市民の割引制度など新しい部屋になったなど好評をいただき、対前年比で102%と大幅な伸びにつながっていません。割

引等で市民にお知らせしようと考えています。

経営の状況は、平成 20 年度は 7 億 9,000 万円で、収支で 3,000 万円の赤字でした。平成 21 は 8 億円の売上で、収支で 1,000 万円の赤字でした。平成 22 年度の 9 月末時点ですが、平成 19 年度とほぼ同じく推移しており、赤字幅の縮減につながっていると思っています。

たかむろ水光園の本館リニューアルの内容ですが、お部屋を新しくしまして、今までは研修で使用するタイプでしたが、今度は家族連れでも使えるようなタイプになりまして、トイレも付きました。市民の皆さんにもチラシ等で割引の告知をしています。

○山田委員長

検証結果ですが、一部見直しは抜本的見直しのどちらかになるかと思いますが、ご意見などございますか。

○鈴木委員

一部見直しでいいと思います。

○小野寺委員

抜本的見直しだと思います。(社)遠野ふるさと公社の機能性を公社自身で本当に確保できるのかがどうか、よくわかりません。機能性や自己責任を考えると新しい体制を考えていかないと難しいと思います。戦略性などの経営視点が入ってくる必要があると思いました。

○鈴木委員

積極的なイメージですね。

○山田委員長

全市的なリーダーシップ、株式会社化、特産品開発の公益的な部分の再編などを考えますと、前向きな意味で抜本的見直しということにいたします。

それでは(社)遠野ふるさと公社は以上といたします。

(社団法人遠野市畜産振興公社)

○山田委員長

社団法人遠野市畜産振興公社です。

提言案は、放牧部、競走馬部門、乗用馬ホースパーク部門、放牧部遠野馬の里共通事項に分けています。

まずは放牧部です。

1 点目は、(仮称)畜産振興計画を策定して、総合的、計画的な畜産振興をすべきだろうということ。

2 点目は、放牧頭数の確保のための増頭対策に取り組むこと。

3 点目は、畜産農家の意欲を喚起するためのブランド化。

遠野馬の里に関しては、既に議論いただいており、それなりに練られていると思います。競争馬部門については、

1 点目は、競争馬育成・調教施設の民営化。

2 点目は、民営化の相手の交渉に着手すること。

3 点目は、民営化にあたり、最小限の施設整備の支援。

4 点目は、民営化が困難な場合の施設活用策の検討。

乗用馬・ホースパーク部門です。

1 点目は、遠野の環境を活かした馬事文化にこだわったまちづくりに資する取組み。

2 点目は、馬事振興のための計画策定、ビジョンを広く市民と共有すること。

3 点目は、計画策定に際しては、市の補助金に依存することなく、他の手立てをいろいろ考えるべきだということ。

4点目は、遠野馬の里、馬事文化に関する事業を広く市民に周知して、共感が得られる取り組み。

放牧部、遠野馬の里の共通事項です。

1点目は、遠野馬の里の見直しに合わせた防疫体制、組織の見直し、効率的な経営体質など、それに対応できる理事会組織の再構築。

2点目は、観光振興、畜産振興としての市の地域資源としての活用。

3点目は、公益法人制度改革に対応した取組みを進めていくこと。

それでは、(社)遠野市畜産振興公社についてですが、主に遠野馬の里に関して既にご議論いただいておりますので、それなりに練られていると思いますが、ご意見をいただきたいと思っております。

○工藤委員

乗用馬、ホースパーク部門関連です。ホースセラピーや、馬に関わる産業を振興していくという意味では、新たな事業展開の研究を行う必要があると思っております。その研究を行った結果、可能などころから実行する方法もありますので、既に実施されている事例の情報を収集し、その現場を視察するなどの試みが必要と思っております。

○山田委員長

ホースセラピーを含めた新たな事業展開と、その実現に向けた取り組みに関する表現が希薄ではないかというご発言でした。それは、是非入れていただきたいと思っております。

これは、まとめにあたって、先に提言させていただいた遠野馬の里の競争馬部門に関しての経過やその後の展開など、ご報告いただけるものがありますか。

○菊池武夫 農業活性化本部長

現状について報告します。競走馬部門につきまして、運営を完全に委ねることのご提言をいただきました。早速、現在利用されている3団体と話し合いを重ねており、4回程行いました。相手方も様々な条件を提示してきており、その条件をどの程度クリアできるのかが課題です。もう1つは、相手方がどのようなかたちで、取り組むことができるのか。例えば、新会社設立など、相手側にも課題をクリアできるのかが課題だろうと思っております。

いずれにしても、今年度中には話し合いを進めて参りたいと考えているところです。

○山田委員長

今のお話は、ここに提言案として、先に中間報告として出させていただいた内容と矛盾しないかたちで展開されていることを確認できたと思っております。

○小野寺委員

馬の里部門と放牧部門が、専務理事も含めて分かれて存在しているということ。検証の際に伺った話では、放牧部門が赤字になると、農協さんから赤字補填があるため、経理上分けていると伺いました。経営上考えた場合に、もっと積極的に合理的な経営を進めるべきと提言案を書いた場合、何か支障があるのか聞きたいと思っております。

明確に、馬の里部門と放牧部門を副理事長、専務理事の役員まで明確に分けなければ機能しないものなのか、効率性から考えた場合どうしても気になるので、改めて確認しておきたい。

○菊池孝二 参与(遠野市畜産振興公社 専務理事)

競走馬部門がある限り、まったく別物のように事業展開しておりましたが、競走馬部門の相手方も(民営化を)受けることは合意しているが、今は条件で検討しているところです。

組織の在り方、公社の役割がかなり違ってきますので、現状のような専務2人体制なども必要なくなると思っております。

競走馬部門と並行して、組織の完全見直しをしていく方向で検討しています。

○小野寺委員

そうしますと、放牧部、馬の里の共通事項の1点目の表現を、もう少し強く書かれたらどうかと感じます。現在二系統となっている組織を抜本的に一本化するなど、管理部が馬の里に入っているのではなく、少し強めの表現でいいのではないかと思います。

○山田委員長

表現で、効率的なの前にそれが入っていくということによろしいですか。

○青木委員

放牧部、馬の里共通事項の3点目で、公益法人制度改革が記載されていますが、改革に対応の方向が、公益法人をめざすのか、それがわからないとはっきりと言えませんが、少なくとも現状のままでは、馬の里も放牧部も収益部門だと思います。

乗用馬・ホースパーク部門は、やり方によっては、非営利事業の可能性もありますが、全体としては公益比率が半分を超えないと公益認定されないはずですので、難しいと思います。やり方によっては、乗馬で稼いで、それを非収益事業のホースセラピーに入れるなどの可能性もあると思いますが、めざすものが収益部門を切り離しての株式会社だど、難しいかと思えます。めざす方向性を踏まえて提言案を書かないと難しいと思います。

○山田委員長

共通事項の3点目については、法人の形態を含めて見直すかどうかということ。

○青木委員

このままだと公益認定が取れないです。

○山田委員長

ここで、どういう法人体制がいいというところまでの言及は難しいと思いますが、公益法人を削除していただくことにします。

○鈴木委員

花巻農協さんが多額に出資されています。この花巻農協さんがこの事業にどういう関わりを持っているのかは、まだ聞いていませんが、連携を密にして相乗効果が出るような方策が立てられるのであれば、そういうことを経営計画に盛り込むべきだと思います。花巻農協産との関係についてお伺いしたい。

○櫻井収 農業活性化本部畜産担当部長

放牧事業は、昔は牧野組合や農協さんなど、様々な主体で行われてきました。それを一元管理することで、市と農協とで3,000万円ずつ出し合い、遠野市畜産振興公社を設立しました。放牧事業は、これまでの経過を見ますと黒字経営が難しく、赤字が出た場合は二分の一ずつ補てんする約束でこれまでやってきました。しかし、農協の合併で、従来の体質のままではだめだということで、将来的に自立する方向で考える話し合いも進んでおります。

増頭対策、遠野牛のブランド化などの対策として、今遠野市では、国の補助事業を申請しております。この事業制度を利用して、この2項目を目標に整備を進めていき、公社の放牧事業の自立を考えております。

○鈴木委員

花巻農協さんの出資に対しては、何の成果で応えようとしておられるのですか。

○櫻井畜産担当部長

増頭になれば、花巻農協さんの収入が増えます。

○小野寺委員

(社)遠野市畜産振興公社の放牧部の平成21年度決算額では、大幅に売上が下がり、赤字が大幅に増加していますが、この原因は。

また、これまでの説明での「公益事業であるから、税金投入する。」という考えには、一定

の理解をしますが、しかし農家戸数が伸びていない。その点の考え方を抜本的に改革されなければ、いつまでも税金を投入し続けることはあり得ないだろうと思います。

その点のお考えをお教えいただければと思います。

○櫻井畜産担当部長

放牧頭数は、年々減っております。その原因としましては、北上山系開発で牧場を整備してから40年近く経過しており、草地の劣化、施設の老朽などもあります。昔は夏期放牧だけでよかったのですが、今はそれだけでは限界です。更に今の経済事情の中、自前で生産コスト押さえる農家もおります。そういう要因で、年々放牧頭数が減っています。

補助事業の中で、通年、(社)遠野市畜産振興公社が放牧事業を稼働できるような施設を考え検討しているところです。それが結果的に(社)遠野市畜産振興公社の放牧事業の自立につながると考えます。

○小野寺委員

平成21年度に大幅に事業収入が減っている原因はどのようにお考えですか。資料では、5,000万円、7,000万円、9,000万円と事業収入が伸びてきているのに、平成21年度は5,500万円と大幅に事業収入が下がっています。伸び率がマイナス40%。事業収益がマイナス4,300万円となっています。このままでは危機的な状況になるように見えるのですが、その点をどのように考えておられますか。

それから、もう1点です。私は、農家がこの放牧事業を信頼して預けるかどうかだと思います。一部の農家しか預けないような放牧事業であれば、そこに税金を投入する意味があるかどうかの議論になると思います。預けられるような環境にある農家の割合が増えていくことが、この放牧事業の信頼を確保することにつながると思います。その点について教えていただければと思います。

○櫻井畜産担当部長

放牧収益が下がった原因は、平成21年度は頭数が減ったことが主な原因であります。

2点目の質問につきましては、やはり農家からできる限り預かってやればいいのですが、これまでも農家自体で施設整備している農家もいます。預けるより、自前の施設で飼った方が、生産コストが安いです。よって、それ以上に増頭してもらうという考え方で、新たな施設整備は要りませんということ農家に対して言って、施設整備に要する資金を牛に回していただくことができれば、農家にとってもいいことですし、(社)遠野市畜産振興公社にとっても収益につながります。そういう考え方を農家にPRしていきたいと考えます。

○小野寺委員

そのキーワードが、通年放牧ということですか。

○櫻井畜産担当部長

従来の夏期放牧だけでは半年間だけしか預けられません。そこには、越冬放牧の施設もあります。その施設を利用して増頭していく農家も市内にあります。

○鈴木委員

勝算はありますか。

○遠野市農業活性化本部 櫻井畜産担当部長

あります。

○山田委員長

現在の放牧部の2点目の表現で、よろしいですか。もう少し加えることがあれば。

○小野寺委員

2点目のところに、通年放牧を入れながら、2点目、3点目の裏付けとして確認させていただきました。

○山田委員長

概ね1, 2, 3でいいが、通年放牧を入れたらどうか。

○鈴木委員

それは、意思として、委託料や補助など、市への依存度を下げていくことですか。

放牧部の1点目の最後に「努力されたい」とありますが、それは明確な目標ではない訳です。「総合的、計画的に畜産振興に努力されたい」の前に、もう少し具体的な文言を入れた方がいいと思います。

○工藤委員

整備だけでなくということですね。

○山田委員長

1点目、2点目に総合的・計画的な畜産振興に対する具体的な表現を入れながら、それが通年放牧というキーワードに対応するかどうかは検討いただき、それが、市への負担軽減につながるような文言を入れることですね。

○小野寺委員

負担軽減は、検討しないと難しいと思いますが、理念としては必要と思います。

○鈴木委員

ブランド化について、国の補助を受けるのであれば、ある程度のストーリーが作られてあると思います。それを入れた方が、具体的なものになると思います。

○山田委員長

具体的なものは、そこから拾えればということですね。畜産振興計画に関わるところに手を入れていただくこと。新たな事業展開の大きく3点についてご意見がございました。

○小野寺委員

もう1つ、公社の方に確認したいのですが、牛以外の放牧の可能性は考えられますか。

○櫻井畜産担当部長

今も、牛のほかに、馬も放牧しています。

羊やヤギは放牧していません。

羊に関しては、雑草の対策にいいということで、奥州市などで試験がされているが、病気に弱いため、やめた農家があります。

○山田委員長

3の抜本的な見直しでよろしいですか。

それでは(社)遠野市畜産振興公社は以上といたします。

(遠野アドホック株式会社)

○山田委員長

遠野アドホック株式会社です。

1点目は、中心市街地活性化を担う設立目的と実際との齟齬が大きい。株式会社として集中と選択を進め、無理のない形で抜本的に見直しを行うこと。

2点目は、中心市街地活性化の関係団体の総合的・体系的な点検を行う中で、中心市街地活性化のためにどういう役割を行う組織としていくか、もう一度再検討すべきであること。

3点目は、中心市街地活性化に係る目的、将来ビジョンを他の組織と共有の上、遠野アドホック(株)の必要の有無、役割の見直しなど、現実的な手立てを講じること。

4点目は、遠野アドホック(株)の存続・再編に際し、経営形態・組織形態や他機関との連携方法、市民参加の方法など、関係団体と協議すること。

それでは、遠野アドホック(株)について、ご意見をいただきたいと思います。

- 倉原委員
問題がなければ、議論の前後を逆に、結論は、「抜本の見直し」でいいのでしょうか。
それによって、中身が変わってくると思います。
- 山田委員長
結論から議論してはどうかということですか。
- 倉原委員
無理のない形を、どのくらいまで具体的に書くのかが悩ましいところです。
- 山田委員長
例えば、「廃止」なら、あまり余計な記述も書く必要がなくなるということもあります。
議論の進め方として、結論から議論することとしていかがでしょうか。
- 小野寺委員
私は、出資の引き上げを含めて抜本的な見直しと思っています。
本来の会社の目的が、遠野アドホック(株)の自由な活動を縛りこんでしまい、縮小再生産の形となっています。やはり、自由に地域商店街活性化の考え方で、2030会議の意見にあるように、おもちゃ館の利活用を含めて、もう一度考えてみる。もし補助金があれば、補助を入れつつ整備していくのが個人的には望ましいと考えておりました。
- 山田委員長
出資の引き上げを含めて、抜本的な見直しというご意見でした。
- 青木委員
提言案にある「中心市街地活性化が設立目的」とあるのが大変になっている。定款では、まちづくり、地域開発、企画・調査・設計など、コンサルタントをしたいのかなと思います。
経営状況を見ると非常に頑張っておられて、赤字は出していない。経営者が手弁当で頑張っておられる。すっきりさせるには、このまちづくりのコンサルタントをやらないのではれば、目的からまちづくりを取ってしまうこと。ただし、それを無くしてしまうと、市が出資している原因としての公益性が無くなってしまうということ。そこは慎重な判断が必要です。
- 山田委員長
中心市街地に関わるコンサルティングを除くと、他の事業体と一体化させた方がよくなるということですね。
- 青木委員
理論上、公共出資の理由も、他との差別化ができなくなってしまう。
- 倉原委員
その際、悪い意味での廃止ではなく、現状は廃止だけでも、再生を含めた抜本の見直しと位置付けることができるのか。その辺、まだ悩むところがあるのですが。
- 山田委員長
つぶすのではなく、自分たちで改めて自由なかたちでの再出発。その代わり公的支援は制限されますということ。
- 倉原委員
体を分解して中味を残すのか。悪い意味でなく、廃止の言葉はふさわしくないが、現状に合わせた形をどう表現するかが難しいです。
- 山田委員長
要は再出発。廃止だけでは。
- 工藤委員
遠野アドホック(株)を立ち上げた最初の志の高さに心を打たれました。しかし今、それを引き継いでいる経営者の方が、現在の社会情勢に合致しているかの評価項目に、「×」を付

けておられる。これは、設立当初の志が重荷なのではないかと受け止めました。

そこで、昔話村や物産館販売など観光に関わる施設は、遠野ふるさと公社へ譲り、遠野アドホック(株)は、自分たちの意思確認をした上で、再編に向けて取組んだ方が良くないかと思いましたが、

○鈴木委員

初期の目的が変わってきている訳ですから、文化面をどうするかについては、市はもう一度考え直しをし、新しいものをつくられることがいい。遠野アドホック(株)は一旦スクラップして、意思を持ったみなさんが新たにビルドしてく方向がよろしいのではないかと尾も増す。意思の高いみなさんであれば、おそらく自立してやっていけるとおもいます。

○山田委員長

廃止とするかどうか。基本的には、組織の目的を見直して、新たな組織として再編していくということ。その再編の方向としては、組織形態、法人形態、それから中に含まれる一部機能は、他の組織へ移す、或いは、市が役割を果たすことも含めて移動させていく。

○小野寺委員

あくまで自立した株式会社ですので、出資の引き上げを含んで、市としては抜本的に見直しをするということだと思おいます。その流れで廃止になるかどうかは、会社側で検討されることと思おいます。

○山田委員長

基本的には出資を引き上げ、抜本的に再編されていく。一部機能は、市や他の団体が担っていくということを整理してまとめたいと思おいます。

○青木委員

すっきりさせて再出発ですが、「発展的解消」という言葉もあります。

○倉原委員

当初の趣旨、みなさんの自主的な参加が現在の運営やまちづくりにも大事なこと。なお、そういう思いや形を積極的に生かして欲しいといったような、いいところを活かすところも入れて欲しいと思おいます。

○山田委員長

まとめの先に、先ずは「発展的解消」の表現を入れ、自主的な努力に対する評価と今後の自主的な展開への期待を後段に入れたまとめ方でよろしいですか。

○工藤委員

志の高さは、1点目の冒頭に入れてみてはいかがですか。

○山田委員長

1点目の冒頭にそれを入れて、最後に、今後の動きに向け、自立的な活動を期待するというまとめ方ですね。

基本的には、発展的解消ということで、新たなスタートを切っていただくことにしたいと思おいます。

この表現から言えば、出資の引き上げと抜本的な見直しか廃止とするか。

○小野寺委員

独立した会社に対して、三分の一しか出資していない中で、廃止を言えるか。

○山田委員長

抜本的な見直しで、出資の引き上げということにします。

(社団法人宮守わさびバイオテクノロジー公社)

○山田委員長

社団法人宮守わさびバイオテクノロジー公社です。

提言案について、書き方が二段になっています。その説明をお願いします。

○菊池文正 経営企画担当課長

前文は、基本的な考え方として書いております。

他の団体との違いは、整理しきれなかった部分もございます。

○山田委員長

場合によっては、他団体と同じように整理されていく可能性もあるということですね。

基本的な考え方としては、現在は非常に非効率な状態にあるということ。ただ、東北一の出荷量を誇っており、栽培環境だとか遠野市の地域資源という考え方もできるので、単に存廃を判断するというのは、早計だろうということ。市や関係団体の将来ビジョンを明確にして、(社)宮守わさびバイオテクノロジー公社の役割を明らかにしていくということがあります。

1点目は、わさび振興計画(仮称)を策定し、ブランド化に向けた取り組みを計画的に進めること。

2点目は、加工・流通・市場などを含めた戦略的な視点で経営に取り組むこと。

3点目は、関連機関・団体との連携、現実的な(社)宮守わさびバイオテクノロジー公社の役割を明確にしていくこと。

4点目は、上記の取組みが不可能な場合は、(社)宮守わさびバイオテクノロジー公社を廃止して、わさび苗の供給に代わる代替施策を講じること。

それでは、(社)宮守わさびバイオテクノロジー公社について、ご意見をいただきたいと思っております。

○工藤委員

4点目で、廃止とありますが、ここも資本金が5,000万円に対して、遠野市が330万しかなく廃止は言えず、むしろ、出資引き上げになるのではないのでしょうか。

○青木委員

これは事業内容から、公的関与の必要性が感じられません。ただし、諸々の経緯もあると思っておりますが、継続するのであれば、(社)遠野ふるさと公社の研究開発部門でいいのではないかと思います。

この規模で、総会や会計の人的コストだけでも、合理性欠く組織形態だと思います。

どこか別の組織との合体がいいと思っております。

○山田委員長

公的関与が低いことを考えると、他の組織との合併を含めて再編すべき。例として、(社)遠野ふるさと公社の開発部門としての位置付けなどのお話でした。

○小野寺委員

わさび特産品をどうPRしていくか。2030会議の意見も含めて、気になるのが、バイオテクノロジー公社のネーミングもですが、販売を含めて考えないといけないと思っております。わさびをどうブランド化するのか考えていただくことが一番だと思います。社名も含めて戦略をもう一遍再構築していただきたいと思っております。

名前をどういうかたちで残してアピールするか。経営は一緒にしても、名前は残すなどの方法もあると思っております。頑張っている方が新しい遠野ブランドとしてのわさびを作っていく。ただし、苗だけ作るのではなく、マーケットや新製品の連携など抜本的に取り組む必要あるだろうと思っております。先ずそれを進めるべきではないかと感じているところです。これだけ長い年月と大きなお金を投じておりますので、その点もう一遍再検証してみてもどうでしょうか。

○山田委員長

わさびの特産品形成の視点から考えると、第一段階としては、目標、戦略、名称も含めて抜本的に見直すところから始めてみてはどうか。それが難しい場合は、出資の引き上げという二段階で考えてみてはどうかとのご提案でした。

○工藤委員

ヒアリングで、「わさび販売は行っていない。生産農家が各々JA等取引先に出荷している状況。生産協議会としてもまとまった販路の開拓の動きは鈍い。社団法人の人員も少なく、わさび苗を作ることしかできない。」との説明があったと思います。その中で、販売強化するのであれば、人とカネと体制の強化が出てくるとと思いますが、どう採算をとるのか検討する必要があります。

盛岡産直を見ても、わさびを使った商品の数が多く、そういう状況をみると、わさびは結構商品開発されて、流通ルートに乗っているとの印象を受けています。

○山田委員長

第1ステップとして、目標・戦略・名称を含め抜本的見直しをしていくことがいいのですが、促進・支援するものもないと無理ではないかとのご指摘に聞こえましたが、そこまで踏み込むことがいいかどうか。

○小野寺委員

苗を生産していますが、それが他の代替で調達できる。本当に苗を作る必要があるのかどうか。苗を他から導入しても、ブランド化のための販売などの動きの検討が望ましい。

今の苗だと、お金を投資しても有意性がないようにお聞きしました。どうしても苗を作らなければいけないというのであれば別だが、先日のお話ではそこまで見えなかった。

○工藤委員

疑問なのは、受益者となる農家数が少ないこと。そこに市民が果たして納得するかどうかということ。

○青木委員

今の事業形態では、縮小はしないが、現状維持のままでは、公共が関与する明白性が見えない。ふるさと公社でわさびドレッシングを買っても、特産地岩手県としか書いてない。特産品なら、もっと前にでていく戦略・戦術が必要。

○山田委員長

ブランド化を図るためにも抜本的な見直し要だが、しかしながら受益者も少なく公益性の面で疑問。そうすると、個別単独に支援する根拠も薄くなるので、(社)遠野ふるさと公社の一部門に再編していくということですか。

○鈴木委員

バイオ公社が栽培農家にとって必要と思われるか。思われていなければいりません。次に、そうなれば自力でどういう道が開けるか見出さないと、スタートしてから既に20年が経過し、その中で、公社の体質がもうこういうものに慣れてしまっている。提言としては、ハッキリと、農家にとって必要な存在になり得るか。やっぱり厳しいが、そういう突き付け方が必要ではないかと思います。

20年経ってもできないことは、実際には無理。日本のいろいろな技術を持ってくるために、そこまで人とカネを注ぎ込むかということ。

○山田委員長

支援ではなく、自立的な方向へ。先述の遠野アドホック(株)と同じ扱いということですね。

○鈴木委員

農家に聞きたい。本当にお金出してもやるのかと。

○山田委員長

鈴木委員の問いかけに対する農家の実態はどのようなのでしょうか。

○(社)宮守わさびバイオテクノロジー公社 菊池孝二専務理事(参与)

総会では「公社を無くせばわさびは終わりだ。」という意見もあるが、委員のご指摘の面はあると思います。個人が商売していることが、宮守わさびの信頼性を失っている面もある。個人では出荷量が少なく「ない。」という対応になり、この程度かということになっている。

わさびバイオテクノロジー公社の議論よりも、わさび生産組合を抜本的に、出荷の在り方も含めて見直さないといけないと感じている。他で2,000円で売っているものが300円で売られている。行政の手が掛けられていない分だけ、まだまだ改善の余地がある。

市の補助はなくても、会社として成り立つのではないかと考えている。

○倉原委員

わさびを大事にして欲しいと思います。わさび振興計画は、しっかりした調査と研究をした上で策定し、その結果によっては廃止・解消もあり得ると思います。ここで存廃を決めるのではなく、まずは、しっかりやりなさいという意見もあると思います。

○山田委員長

1点目と2点目、3点目まではいいですね。そうすると、一つは自立の方向でいく。支援ではなく、自立的に見直しを図っていくことが前段の締め括りであって、その努力の成果が難しい場合には、出資の引き上げという考え方でまとめます。

出資は、現状のまま。成果がおもわしくない場合は、出資の引き上げ。苗の代替施策はあってもいい。廃止は表現しない。出資の引き上げは、自助努力が十分見られない場合。

○小野寺委員

長期ビジョンとしては、出資引き上げを前提として、計画をしっかり組み立てることではないのでは。先程の菊池参与のお話では、自立が可能とのこと。

○山田委員長

出資も当面の出資ということですね。

○小野寺委員

受益者農家も少ないし、出資する意味合いが無いのかもしれない。

ゼロベースで検討したうえで、もう一度出資が必要かどうか検討すべき。

○青木委員

これまでは、合併前の延長線上であったかもしれないが、遠野市のわさび振興計画で市の位置付けをはっきりさせた上で、必要であれば市の出資もあり得るのではないかと思います。

○青木委員

わさび振興計画を検討して、その中で(社)宮守わさびバイオテクノロジー公社の位置付けをはっきりさせて、必要があれば出資を継続するという考え。

○山田委員長

最初から出資の引き上げではなく、長期的には出資の引き上げを前提にということですね。わさび振興計画を策定し、最後に計画に基づいて出資の引き上げも考慮に入れる。

○倉原委員

わさび振興計画には「宮守」の名前を入れて欲しいと思いました。

○鈴木委員

「遠野」の方がいいのでは。

○山田委員長

遠野のわさびとして見直していくという視点もあるということですね。

結論としては、出資の引き上げではないので、基本的には抜本の見直しです。その文言の

中に計画、展開に応じて判断していく。結論は抜本の見直しとします。

○山田委員長

残りの3団体につきましては、改めて開催させていただきたいと思います。
今日は、以上で終わらせていただきます。

(2) その他

○菊池経営企画担当課長

その他は特に用意していません。

5 閉会

○菊池経営企画担当課長

残り3団体は、10月下旬に日程調整させていただく。
以上をもちまして、第8回遠野市進化まちづくり検証委員会を終了します。